## 大著の言い分

山口昌子

テロとの戦い方』『パリの福沢諭吉』など。二〇一一年パリ支局長。著書に『フランス流ジャーナリスト養成所で学ぶ。一九九〇~ジャーナリスト養成所で学ぶ。一九九〇~月ランス政府給費留学生としてパリ国立後、産経新聞社入社。一九六九~七〇年やまぐち しょうこ 慶應義塾大学卒業やまぐち しょうこ 慶應義塾大学卒業

## フランスの覚悟とプライド 老獪なミッテランからにじんだ



モを時系列でまとめたものが四巻あ 山口 一九九○年にパリに赴任し、 ミッテラン、シラク、サルコジと三人 ミッテラン、シラク、サルコジと三人 の大統領の時代にフランスとヨーロッ の大統領の時代にフランスとヨーロッ

は、ベルリンの壁崩壊の翌年で、世界――支局長に就任された一九九〇年とに並べて刊行する予定です。第一巻とに並べて刊行する予定です。第一巻は「ミッテランの時代」。第二巻「シは「ミッテランの時代」。第二巻「シは「ミッテランの時代」。第二巻に産経新り、最後の一巻は二〇一一年に産経新り、最後の一巻は二〇一一年に産経新り、最後の一巻は二〇一一年に産経新り、最後の一巻は二〇一一年に産経新り、最後の一巻は二〇一一年に産経新り、最後の一巻は二〇一一年に産経新り、最後の一巻は二〇一十年に産経新り、最後の一巻は二〇一十年に産経新り、最後の一巻は二〇一十年に産経新り、最後の一巻は二〇一十年に産経新り、最後の一巻は二〇一十年に産経新り、

山口 パリに赴任したのが九○年五月山口 パリに赴任したのが九○年五月ですから、前年一一月八日のベルリンの壁崩壊の熱気というか、余韻が残っていました。まさにヨーロッパ激動のでいました。まさにヨーロッパ激動のことは記者冥利に尽きます。

パリ日記

一特派員が見た現代史記録 1990-2021 I・ミッテランの時代 1990.5-1995.4

**山山画士・者** 藤原書店/2021年9月/5280円 すことと、大国としてのフランスの地中東と関係が深く、ミッテラン大統領中東と関係が深く、ミッテラン大統領中東と関係が深く、ミッテラン大統領に従い、アメリカを中心とした多国籍に加わって参戦したわけですが、参軍に加わって参戦したわけですが、参軍に加わって参戦したわけですが、参軍に加わって参戦したわけですが、参軍に加わって参戦したわけですが、参軍に加わって参戦したわけですが、参軍に加わって参戦したわけですが、参軍に加わって参戦したわけですが、参

四月に取材で訪問したルーマニアとア山口 印象に残っているのは、九一年れ、変革の時代を迎えました。

撃を受けたのをよく覚えています。

とのあまりの落差を感じつつ、フラン位を保持するということでした。日本

スという国が持つ覚悟とプライドに衝

した時は、高価な背広を着てましたけ した時は、高価な背広を着てましたけ した時は、高価な背広を着でましたけ した時は、高価な背広を着でましたけ した時は、高価な背広を着でましたけ した時は、高価な背広を着でましたけ した時は、高価な背広を着でましたけ した時は、高価な背広を着でましたけ した時は、高価な背広を着でましたけ

られるわけですが……。 光もこのあと急速に英語に取って代わスの底力を感じました。しかしその威訳なしで取材できたことです。フラン訳なしで取材で

山口 最近は日本にいても海外メディで取材のあり方が変化してきました。――近年は情報・通信ツールの発展

味が問われていると思います。ま新聞記者が「現場にいる」ことの意ンターネット配信される時代です。いアにアクセスできるし、記者会見もイアにアクセスできるし、記者会見もイ

着任三ヵ月後の八月にはイラクがク

答えは人それぞれですが、私は現場でしかわからないこと、その場の空気とか、ニュアンス、五感の記憶のようとか、ニュアンス、五感の記憶のようとか、ニュアンス、五感の記憶のようとか、ニュアンス、五感の記憶のようとが、コンコルドの墜落現場での絶望郊外、コンコルドの墜落現場での絶望が外、コンコルドの墜落現場での絶望が外、コンコルドの墜落現場での絶望が人よりとした空気とにおい。すでにどんよりとした空気とにおい。すでにどんよりとした空気とにおいます。

ど (笑)。

意外だったのは、どちらの国もエ

も嬉しく思います。

気」を読み取っていただければ、とて

た。『パリ日記』からもそのような「空を大事にしながら記事を書いてきまし